Ⅴ　目指す方向性と10年後の姿

将来像　「府民とともに未来へつむぐ豊かな『農』」を実現していくため、府民生活で農業・農空間が将来にわたって果たしていく役割に着目し、【しごと】【くらし】【地域】の3つをテーマとして、目指す方向性と10年後の姿を設定します。

　　　また、おおさか農政アクションプランで『ひと』『もの』『空間』の３つの柱を対象に進めてきた施策を有機的に結び付けることで、より府民に分かりやすく、効果的な施策の推進を図ります。

ひ　と

も　の

空　間

１．　【しごと】　農業でかっこよく働こう！

２．　【くらし】　農でくらしを愉しもう！

３．　【地 域】　農空間をみんなで活かそう！

１． 農業でかっこよく働こう！

―「重要な産業」としての大阪農業の振興－

* 大阪農業は、都市の立地を活かして施設園芸作物などが集約的に生産されており、生産額ベースでの自給率は5％となっています。また、「しゅんぎく」や「こまつな」、「ぶどう」など全国でも有数の収穫量を誇るものや「水なす」、「若ごぼう」など特徴のある農産物が生産されています。
* 大阪農業の特長を活かし「重要な産業」として育てていくために、ビジネスマインドを持つ農業者の育成、規模拡大や法人化の支援、府民や企業の農業参入にむけたサポート、若手農業者の育成などに取り組みます。
* 生産の省力化や高付加価値化のための革新的農業技術を、大学や研究機関等と連携して開発・普及するとともに、農地利用の促進を図ります。また、地産地消を支える農業者の育成と生産振興により大阪産（もん）を安定的に供給します。
* 大阪らしい特長を有する戦略品目について生産とマーケティング、販売が一体となったブランド展開を推進します。
* なお、取組みにあたっては、地域で生産されるものを地域で消費する「地産地消」に加え、府民のみなさんが求められるものを作り届ける「地消地産」の視点も重視していきます。

**＜１０年後の姿＞**

**農業経営体の販売額の増加　40億円（200　→　240億円　年２％増）**

**※H27センサスデータからの推計**

２．　農でくらしを愉しもう！

―農を身近に感じ愉しめる機会の充実―

* 大阪産(もん)を率先して購入したいと思う府民の割合は概ね50％となっています。農産物直売所も賑わっており、5年前と比べ販売額は1.6倍に達しています。また、府民の１/３が大阪の農業・農空間に「安らぎやレクリエーションの場の提供」を期待しています。（平成26年度府民アンケート）
* より多くの府民のみなさんに、農を身近に感じ愉しんでいただくため、大阪産（もん）や農業・農空間の多面的機能を知り、学ぶ機会の充実と身近な購入場所や飲食店の増加に取り組みます。
* 農産物直売所の機能を高めることなどにより、生産者との交流や農業体験の場を提供します。

**＜１０年後の姿＞**

**府民が大阪産（もん）に直接ふれられる拠点数の増加　242件**

**（470　→　712件　農産物直売所及び販売所）**

３．農空間をみんなで活かそう！

―大阪農空間の多様な機能の発揮促進－

* 府内農地は13,200ｈａで、その内約30％は市街化区域内にあり、府民に身近な存在となっています。また、能勢町長谷や千早赤阪村下赤阪をはじめとした棚田などの農村の原風景を保つ地域や、泉州地域の水なすの園芸団地など、多様な農空間が広がっています。農空間は、水源涵養などの国土保全や農耕に係わる祭りなどの文化の継承、イベントなどを通じた都市に住む府民と地域の住民の交流など、多様な機能を有しています。
* これらの機能を、農家をはじめ、地域住民や府民、企業などのみなさんと共に支え、活かし、次代に継承していきます。
* 府民のみなさんが、農業・農空間に関する様々な活動に愉しみながら参加できるような環境をつくります。地域の魅力や特性を活かして、農業を中心とした地域づくりを府民のみなさんと共に進めるとともに、農空間を活かした安全安心の確保にも取り組んでいきます。

**＜１０年後の姿＞**

**地域の特色を活かした農空間づくりの実施 ４３市町村（28　→　43市町村）**